



八雲町産ぶどうを使用したワイン醸造とワイナリー設立を目指して！ 醸造用ぶどう苗木の植樹体験が行われました

5月23日と24日に、醸造用ぶどう栽培ほ場（三杉町）にて、町内の児童発達支援・放課後等デイサービス（mana、ファイン）の児童と東京理科大学長万部キャンパスの学生を対象としたワイン醸造用ぶどう苗木の植樹体験が行われました。

この体験は、八雲町でワイナリー設立を進めていくにあたり、将来的な農福連携、教育活動（農育）のほか、新たな雇用・産業の創出を目指すモデル的な取り組みとして実施されました。

2日間で、1,500本のシャルドネの苗木が植樹され、そのうちの500本が児童および学生の手で植えられました。体験に参加した児童と学生は楽しみながら、植樹体験を行いました。

今回植樹されたぶどうが、3年後に美味しいワインへと変身するのが楽しみです。



～美味しいお米になあれ！～

東野小学校田植え体験学習が行われました

6月10日、薄日が差す心地よい空模様の中、東野小18名の児童のほか、野田生小11名と山越小8名の児童を加えた計37名が、東野小学校近くの田んぼで『田植え体験学習』を行いました。

東野小学校の田植え体験学習は、地域で行われている米作りの『田植え』を体験することで稲作の実態を知り、農業への関心を高め、さらには地域の良さを実感してもらうことを目的に昭和60年から続けられている行事であり、数年前からは近隣の小学校も参加するようになり、今年で40年目になります。

最初、田んぼに足を踏み入れた時には「キャー、冷たい！」と大声を上げて体が固まっている児童もいましたが、東野山後継者会の方々のサポートを受け、田んぼの泥に足を取られながらも絶妙なバランス感覚で転ぶことなく、1本1本まっすぐ丁寧に心を込めて植えていきました。

感想を聞くと、「おもしろかった」「足がはまって抜けなかった」「最初は冷たかったけど、だんだんぬるく感じて気持ち良かった。」と、みんな手足泥だらけになりながらも笑顔で話してくれました。

昨今、コメ価格の高騰が日本中の話題となる中、この体験をとおしてコメ作りの大変さや大切さをリアルに感じ、地元農家さんに感謝の気持ちを抱いたことと思います。

10月には、稲刈り体験も行われるそうで、収穫が楽しみです！

（取材）落部支所：阿部雄一

